

〔檜葉町役場 檜葉町仮設校舎敷地造成工事、仮設校舎設置事業〕

「より良い教育環境で平等な教育を子どもたちに」
檜葉小・中学校中央台仮設校舎（こども園併設）の開校式が開催されました

12月19日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第5次助成先の一つである檜葉町は、避難中の小中学校生徒、幼稚園児などのため、避難先のいわき市に建設中の仮設校舎および仮設園舎の開校式、開園式を執り行いました。

福島県檜葉町は東日本大震災による原発災害により避難生活を余儀なくされ、町内の二つの小学校と一つの中学校の生徒も区域外での就学を強いられました。檜葉町で共に過ごした同級生や先生との授業を切望する生徒、父兄の要望を受け、平成24年4月、檜葉町教育委員会が多くの町民が避難しているいわき市の民間施設を借り受け、101名の生徒たちへの授業を再開しました。しかし、本来の檜葉町への帰還には未だ数年の年月を要します。そこで現在142名まで増加した生徒達の負担を少しでも軽減し、より良い教育環境を提供するため、平成27年3月までの間、仮設校舎での就学を計画いたしました。本助成金に申請し、1億9100万円を仮設施設用地造成費用、仮設校舎設置費用、備品購入費用などにあてました。

開校式で檜葉町の松本幸英町長は「子どもたちが避難している状況にあっても、より良い教育環境の中で平等に教育を受けさせなければならないと考えています。この震災を経験をした子供たちは、必ずや豊かな人間性と社会連帯感を身につけ、未来の繁栄に能力を発揮してくれると信じています」と挨拶しました。



「平等に教育を受けさせなければならない」と開校の挨拶をする、松本幸英檜葉町長



開校式の最後に子どもたちみんなで3校の校歌を斉唱しました



生徒と談笑する有富理事長



来年1月の3学期から新しい教室で授業がはじまります



校庭は200mトラックのある7,800㎡の広さです



仮設校舎、特別教室、屋内運動場がプレハブ構造で建てられました